

11月3日、首都大で、「放射線」
「ゲノム」を知る充実の時間

毎年、首都大学東京同窓会が、「みやこ祭」協賛事業として開催している特別講演会。今年は、放射線学科長の福士政広教授と生命科学専攻の田村浩一郎教授を講師に迎え、放射線の正しい理解や生物の進化の謎について開催されます。学術的な側面、実際の生活に関わるエピソード等々、知的好奇心が満たされること間違いなし。

■福士政広教授

東日本大震災と

福島第一原発事故に学ぶ

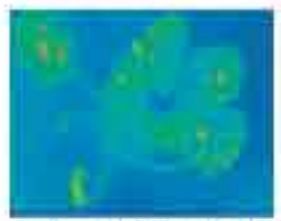
—放射線を

正しく理解しよう

東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故によって広範囲に飛散した放射性物質が、あれから一年半の時を経て、人々の生活にどんな影響を及ぼしたのか。そして、今後どのように状況が推移していくのか。最新のデータを交えながら、参加者と共に学ぶ一時間。



▲福士政広教授



▲ホウレン草の表面に放射性物質が付着したオートラジオグラフィ

「今年4月から、食品中の放射性セシウムの基準値が大幅に下がりました。この数値が体内被曝にどう影響を及ぼすのか、また生産者の側から見た時にどんな影響があったのか等、多角的な視点からお話しします」

様々な飛び交う情報に踊らされて過剰な不安や変な安心感を持つのではなく、自分で判断できる知識をもつ第一歩に。

■田村浩一郎教授

ゲノムと進化

—ヒトはどうして

ヒトなのか？

生物の進化の鍵を握る「ゲノム」。これは一言でいうと、生物の設計図で、DNAという物質でできている。ヒトとサルが違っても、兄弟同士が似ているのも、ゲノムの作業。では、このゲノムはどのように変化するのか？そしてゲノムの変化がどのように生物の進化につながるのか？



▲田村浩一郎教授 パソコンの画像は、教授が開発したソフトウェアMEGA5

「ヒトは野菜を食べないと身体の調子が悪くなりますね。でも、イヌやネコは食べなくても大丈夫。『は食べなくても大丈夫。』どうしてかわかりますか？ 生物の進化の歴史を学ぶと、それがわかるんです」

難解に思える進化の話が、身近な生活の話と共に、ストンとわかります。知識の幅を広げましょう。

〈首都大学東京同窓会

講演会〉

▼日/11月3日(祝)▼時間/13時~14時・福士教授、14時~15時・田村教授▼会場/首都大学東京南大沢キャンパス1号館1206教室▼無料▼申込不要

〈福士政広教授〉首都大学東京大学院教授・人間健康科学研究科放射線科学専攻長、同大学健康福祉学部放射線学科長兼任
〈田村浩一郎教授〉首都大学東京理工学研究科生命科学専攻・教授



首都大学東京同窓会事務局

☎042-670-7702

八王子市南大沢1-1 首都大学東京内
(京王相模原線南大沢駅徒歩3分)

営平日9:00~17:00

tmu-al@tmu.ac.jp